

小学校五年

チャレンジ 話すこと・聞くこと

この音声問題は、第五学年国語問題の冒頭に放送するものです。

はじめに、話すこと・聞くことにチャレンジしましょう。
今から一回だけ、音声による問題を放送します。よく聞いて、あとの問題に答えてください。問題用紙は開かないでください。聞いていて大切だと思うことは、表紙のあいているところにメモをしてもかまいません。

木村さんの学校では、五年生の学年集会に地域の方に来ていただき、インタビューをすることにしました。どんな方に来ていただくか、調べていたところ、今から約四十年前に熊本市で行われた動物園の引越しの新聞記事を見つけました。そこで、今回の学年集会には、そのときに、中心となって取り組まれた元熊本動物園園長の竹田さんに、学校に来ていただくことにしました。これから係の木村さんがインタビューを行います。あなたも学年集会に参加しているつもりで聞きましょう。

木村　こんにちは。今日は夢に向かって努力された地域の方にお話を聞くという目的で、竹田さんにインタビューをします。よろしくお願いします。

竹田　こんにちは。よろしく申し上げます。

木村　なぜ、動物園の引越しをされることになったんですか。

竹田　その当時の動物園は狭くて、動物たちが十分な運動ができずに病気になってしまうことがありました。それに、多くの人に来てもらって、もっと広い場所で、ゆつくりとした気持ちで動物を見てほしかったからです。

木村　動物が健康に生活するためにも、動物園には広い土地が必要なんです。では、動物園の引越しで大変だったことは何ですか。

竹田　はい、たくさんの動物を安全に健康な状態で運ぶのは大変でした。運ぶための檻おりは、一つ一つ動物に合わせて特別に作りしました。檻おりを何度も作り直したので、全ての動物を移すのに、約一か月かかりました。

木村　それぞれの動物に合わせて檻おりを作るなんてすごいですね。でも、そのおかげで無事に動物を運ぶことができたんですね。では、運ぶのに一番苦労されたのはどんな動物ですか。

竹田　一番苦労したのはゾウですね。日ごろはおとなしいのですが、怒ったら暴れ出します。踏みつぶされたら大変ですよ。なにしろ体重は四トン近くもありますから。鉄パイプで固めた高さ三メートルの特製の檻おりを用意しました。数日間は檻おりに慣れさせてから運ぶので、一頭で三、四日かかりました。

木村　大変な引越しだったんですね。途中であきらめようと思われたことはありませんでしたか。

竹田　いや、きつかったですが、今までよりも、もっと多くの子どもたちに喜んでもらえる楽しい動物園をつくりたいという夢があったので、やめたいとは思いませんでした。それに、大変だったからこそ、引越しが無事に終わったときの喜びは大きかったです。

木村　わたしたちは、きつことがあると途中であきらめてしまうことがよくありますが、夢をもって、きついことにも負けずに努力することが、夢をかなえることにつながるんですね。

では、竹田さんが、動物園で働いてこられて、うれしかったことはどんなことですか。

竹田　動物が健康でのびのびと生活している様子や動物を見て喜んでくれる子どもたちの姿を見るのがうれしかったですね。

木村　動物や子どもたちの喜びが、竹田さんの喜びだったんですね。では、わたしからのインタビューはこれで終わります。これから質問の時間にします。みなさんから竹田さんに質問したいことはありませんか。

まだ、学年集会は続きますが、放送はこれで終わります。
それでは、問題用紙を開いて始めてください。